

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人楽々会 グループホーム楽苑
(ユニット名)	楽 2
所在地 (県・市町村名)	長崎県島原市有明町湯江乙1138
記入者名 (管理者)	北島 由美子
記入日	平成 20年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有 楽しくなければ楽苑ではない			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		職員だけでなく、利用者、その家族にもわかりやすいよう実行して行けるような理念を掲げている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		職員は勿論のこと、家族にも理解いただくよう取り組みたい。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		自治会の公民館が隣接するので、気軽に来苑して下さるよう、たとえば、立ち話程度でも会話を増やしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		デイサービス利用の方との交流の場を、もっと増やしたい。レクリエーション、風船バレー大会なども実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>自治会の敬老会に参加してもらい、地域の高齢者の方を対象にした、リハビリ体操の呼びかけも行き、月1回の体操教室も行っている。</p>		<p>苑内の行事、レクリエーション、演芸会、夏祭り等に招き、利用者にも外部との接触を増やしたい。地域の方にもホームの楽しさを見て頂きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を通して自己評価、介護支援の現状を見直し、意識向上に努めている。</p>		<p>一部の職員のみで行っているところがあるので、今後、職員全員で改善に取り組みたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度、地区の自治会長、市長村圏組合、利用者家族を交えて会議を設け、現状報告、サービス向上に活かしている。</p>		<p>会議を通して、家族からの提案として大切に耳を傾けたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎年、市主催の「健康福祉まつり」に参加し、地域の方への理解を深めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、職員とも、権利擁護事業の研修に参加し、必要な場合に備えている。</p>		<p>権利擁護に関する制度など、詳しく勉強する機会をもち、活用したい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が虐待は絶対してはいけない事を念頭に置き、言動、行動に気をつけ、利用者の方が傷つくことのないよう努めている。</p>		<p>職員同士の注意、呼びかけも日々努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所に関して、心配、不安を抱えている問題など、親身に聞き、安心してもらえるよう納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情にはしっかり耳を傾け、管理者にも報告し、ミーティング、申し送りを通じ話し合い、解決に導けるよう努めている。記録ノートも専用で作成している。</p>	<p>出来るだけ利用者の意見、苦情を聞き、より過ごしやすいよう支援して行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日頃の生活状態、体調の変化、精神面の変化など報告を密にしている。</p>	<p>毎月、お手紙など発行したい、本人の写真を添えて日々の様子を伝えたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの不満、苦情などしっかり聞き、誤解は解けるよう誠意を持って伝えている。解決に向けスタッフ間で記録し話し合っている。</p>	<p>これまで以上に、満足を得るため万進したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>必要に応じミーティングを月一度設けたり、又 朝の申し送りを利用し相互の意見を出し合い反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の病状や家族の対応等の為、勤務時間の変更調整をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職種の異動がある場合は、職員の同意を得るよう心掛け、離職の申し出があった場合は話し合いの場を確保、適切に対応できるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講する機会を設けている。研修報告も行い、ホームの室の向上を目指し、スタッフの仕事へ意欲の向上にも繋げている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会を通じ交流を持っている。互いのホームの利点を交換し向上出来るよう努めている。	他ホームの見学、一日体験等も希望したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレスが溜まる事のないよう、報告も兼ね、些細な事でも皆で話し合いをするようにしている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの長所を見極め、適材適所で活動できるよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	対話や関わりを多く持つよう努力している。'楽しい所'という気持ちを持って頂けるよう、特に笑顔で接する事を心がけている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の事情をよく汲み取り、希望に沿えるよう努めている。家族の相談や質問には、不安が取り除かれるまで説明したり、ホーム見学をおすすめしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、足りないか、どのように解決していくかなど、時間をかけて話し合っている。		どのスタッフでも、家族が同じ目線で話すことが出来る様、職員間のしっかりした統一をより深めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格を考え、タイミングや、どのような方法でどのようにてを貸すか色々な案を打ち出しながら検討して努めている。		
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	手作り饅頭や七夕飾り作りなど、一緒に何かをすることで利用者の昔の知恵を伝授してもらったりと、家族的な関係を築いている。		本人から学ぶ要素をもっと対話から増やしたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に生じた問題などもよく理解し、家族の心身的負担も軽減できるよう、相互の関係を日頃から作りたい。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時に、本人と家族の間にて間接的な役割を果たし、良好な関係が保てるよう工夫に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診の帰りに、行きつけのお店に寄ったりし、同敷地内のデイサービスへお知り合いに会うためにお連れしたりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の言動を聞き逃さず、見逃さず、スタッフがクッション的役割を果たし、気まずさが長引かないよう適度に口を挟んだり、会話を代えたり配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後、家族から「入所前と比べて表情が豊かになった」「～が出来るようになった」などと喜びの声を聞くことのできるよう、介助、支援し、家族との関係も大切にしている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通じ、本人の希望、要望を感じ取り、達成に向けて行けるよう考えている。		会話から、本人の要望、希望を感じる他にケース by ケースで「何かお手伝いすることはございませんか?」との問いかけを増やしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、主治医を通し生活歴や病歴、本人の持つ習慣的な物事に至るまで把握することに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常のカルテの記入を通じ、他スタッフにも経達し、内容がわかるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一度、ケアプランを作成している。短期目標、長期目標の基にスタッフ同意の意見交換を、家族の要望などを組み入れ作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度の介護プランの変更、付加を行っている。見直し実行に至っているのかなど、継続して行っていくのか等の評価も話し合い、プラン作成に努めている。		家族が来訪時に、本人のおきている現状をお伝えし今後をともに考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ相互間が情報を交換し合い、個別記録を基にケアプランの作成や見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが隣接してある為、希望時、マッサージ機等を利用して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の婦人会、中学生、文化協会の協力を得、楽しい時間を過ごされている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接しているデイサービスにも足を運び、マッサージ機やカラオケ等で楽しみ、又デイ利用の方とも交流を深めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	生活保護受給の利用者の対し、権利擁護事業を利用したい。		今後、要支援者の入所の際、地域包括センターからの情報交換等をお願いしたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の安心を保てるよう、入所前の係り付け医への受診を支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診の度に、日頃の様子の変化を詳細に伝え、適切な治療受けられるよう努めている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>バイタルチェックや、本人の状態を話し、相談や支持を受けている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院との連絡を密にし、必要であればスタッフが病院に出向き正確な情報を得ている。本人も喜んで安心頂くようスタッフが交代で顔を出している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>どの段階までホームで見届けが出来るかなど、家族、病院、ホームで話し合いを行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>受診を入院を通じ、症状が重度になった場合、予想できる事を検討し準備も行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームでの様子を詳細に家族に話し、なるべく今までの状況と近い環境に置き、不安を軽減させる支援をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドは守り、否定した言葉や対応をしないよう留意している。	肯定用語をもっと使うようにしたい。「頑張ってるね」「頑張ってますね」など。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の方には、筆談と身振り手振りを使い、理解を深めている。 決断、納得しやすいよう助言している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人の 'らしさ' を大切に考えている。 会話の中から何をしたいのかを感じ取り、プライベート時間を支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理髪店、美容院に通われる方には送迎を行っている。	ホームでも本人の希望に合わせ、外部よりパーマ、カットの支援を頂いている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、ねぎ巻きなど、昔を懐かしみながら程度のお手伝いをされている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アレルギー体質の方がいるので、しっかり把握し別メニューにするなどの支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間トイレ使用の方でも、日中は支障の無い限りはトイレで排泄していただいている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。アレルギー性皮膚病の方には、入浴剤を考慮し、一番風呂の入って頂くなど低刺激で安心して入浴していただく支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は適度に体を動かし、日当たりのいい場所に椅子を置くなど休息の場を設けている。夜間、眠れないときは暖かい飲み物を提供したり、会話をしたり、不安などを取り除き眠れるお手伝いをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リハビリ体操、おやつ、トランプなど楽しめる。満足頂くよう時間の確保に努め支援を惜しまない。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で買い物をし、お金を支払う喜びは感じていただけるよう、見守りながら一緒に買い物をしている。		所持金の把握が出来ないので、家族の方に今一度協力いただくよう話し合いを進めている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容院、美容院など、本人の希望を聞き送迎を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り、お寺参りなど、時間を作り同行している。又、家族と外出されることもあり、楽しい時間を持たれる。ホームでも外食、花見などを楽しめる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、ハガキのやり取り、電話の取次ぎ、希望時には家族への電話など、気軽に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、自室やリビングにて喜んでくつろいで頂けるよう心掛けている。宿泊される家族の方には畳間にて一緒に過ごして頂き、夕食、朝食の提供もしている。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームの方針の一つである、'いつでも、どこでも自由に身体が動かせる様、拘束は一切しない、その代わり目を絶対離さない、一人にしない'など徹底している。		リビングを離れる時など、必ず他の職員に声をかけ、更に返事や姿を確認する事を徹底している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、鍵をかけない代わりに、人の出入りが即分るよう、音センサーを設けている。		外に出たがる利用者には、制止せず、気が済むまで一緒に付き合いながらも、本人の気持ちを落ち着かせる様、笑顔や会話を持つての対応に心掛ける。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーは確保しながら、食事、入浴、洗濯物の干し取り込み、体操などを通して、本人の所在している安否の確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態に応じ、各個人の物品を職員が把握し、危険と判断したものはホームで保管、管理を行っている。		他者との貸し借りが把握できていない時もあり、今後の課題である。 はさみ等等など。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態の対応マニュアルがあり、職員のすぐ目のつく所で、内容も把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当等、緊急時の対応研修会を受け、職員全員で対応できるようマニュアルの設置もしている。		冷静な判断が身につくよう、マニュアルに目を通す時間を増やしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害時の非難訓練を年に二度程度行っている。非常口、消火器の使い方や、通報の手順についても、市や地域の消防団へはボタン一つでつながるようにしている。		夜間、緊急時など、職員の連絡網を作りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃かの健康状態、生活状態を家族の来訪時に伝え、どんなリスクがあるかなど、対応策も相談し合い協力体制にある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の病歴、バイタルの平均値の把握を基に、本人の体調不良の訴えや、前日の様子を振り返り受診している。場合によっては、家族への事前事後連絡も行う。職員間の連絡も行う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬や用量の変更については、連絡帳、個人カルテに詳細に記している。服用は見守り、薬の作用についてのファイルは薬と共に管理している。		薬は、全面管理している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便のチェック表を作成し記入している。排便は3日間を目安に各人に合った下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいや歯磨きは、介助の必要な方には側について支援し、入れ歯の方には、入れ歯洗浄剤にてケアを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の持病を考慮し、減塩食等を心掛けている。水分補給も量の分りやすい容器にて部屋で摂取してもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症用のマニュアルもあり、手洗い、うがいや、他にアルコール消毒、オズバン消毒なども活用し行っている。外部用にも棟玄関に来訪用の消毒を置き協力頂いている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎日消毒、おしぼりは毎日交換、調理器具は熱湯、アルコール消毒を行っている。		浴室に関しては週一度、又は、必要に応じオズバン消毒などを行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にテラスを設置し、花や植木を植えている。来訪された方への笑顔での挨拶は徹底している。		玄関前に、四季ごとの花の種類や、数をふやしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳間に掘りごたつや掛け軸、花などを飾り、家庭的な雰囲気を保っている。廊下もテーブルと椅子を設け、お茶などを楽しみ、日光浴にてオセロゲーム等を楽しみながら自由な時間の提供に心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子、長椅子、ソファなどを、リビングや廊下の至る所に置き、それぞれが過ごされ'孤立'という感覚ではない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持ち込んで頂くなど、体の状態に合わせた居室を心がけている。希望があれば、ベッドの他に部屋に畳を敷くなどをおこなっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除時には、必ず空気の入替えを行っている。冷暖房は、冷やしすぎず、暖めすぎない様、訪室の際確認している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴室、トイレ、廊下の手すりを設置し、ベッドにも手すりを設け、自力で起き上がりたり出来るようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	便のチェック表を作り、毎日記入して頂いている。表を記入することにより自分の体の状態を意識する事にもつなげている。		チェック表の記入能力に、多少なりに疑いがある方の信憑性が心配である為、今後注意して行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭には、季節の草花や果実の木等を植え、時には食したり、又、観賞を楽しんでいる。中庭も季節の花を咲かせ、お花見気分を楽しんで頂く。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月一度のお誕生会は、全品手料理でのおもてなしをしている。 入浴は、日曜日以外の毎日が入浴日である。 入所前からの係り付け医にそのまま継続出来るように計らっ